

題材「中学生になって」(第1学年)

〔事前指導 等〕



1 年間指導計画に示されている題材の指導内容の確認【学年会での打合せ】

教師1:「入学したばかりで、どの生徒もまだ不安な様子がありますね。」
 教師2:「中学校生活の不安が減るように、どのクラスでも同じように指導をして、いわゆる中1ギャップの軽減につなげていきましょう。また、担任として目指す生徒像や具体的な方針を伝えて、生徒を安心させましょう。」

2 生徒・保護者アンケートの実施、教師の願いの整理

保護者:「学校からのアンケートね。保護者の声も聞いてくれるのね。うちの子には友達とうまく付き合いながら、目標に向かって努力できる中学生になって欲しいわ。」

S1:「僕は、友達と仲良くしながら、部活も勉強も両立できる中学生になりたいな。」

3 アンケート結果の集計

教師:「生徒の楽しみなことと不安なことを、グラフを使って紹介して関心を高めよう。」

小学校6年生でも「もうすぐ中学生」などの題材で中学校生活に対する希望がもてるような指導を展開するよう、小学校と連携を図っておく。

本事例では入学当初という実態を踏まえ、教師が集計を行っているが、本来は、グラフ等の資料作成や結果発表は学級活動委員会等で行う。

〔本時の展開〕

1 アンケート結果の確認(問題の把握)

教師:「先日、みなさんに書いてもらった『中学生になって』のアンケート結果を発表します。どうですか?気づいたことなどを発表してください。」

S1:「予想通りでした。期待も大きいけれど不安も結構あって。集計結果では『授業についていけない不安』が最も多くなっていますが、私は友達関係がうまくいけるか一番心配です。」

S2:「ぼくは、中学校になると急に勉強で忙しくなってしまう、小学校の時のように学級のみんなで楽しむ活動ができなくなるのではないかと不安です。」
(以下、略)

2 課題解決に向けての話合い(原因の追及・解決策)

教師:「みなさんの不安は、担任教師の方針や中学校1年生の学習内容をはじめ、学校生活が見えないことによる漠然とした心配なんですね。今日はじっくり話し合います。では、まずアンケートにもあった「どんな中学生になりたいか(理想の生徒像)」について話し合います。自分の思いを発表してください。」

S3:「ぼくは、時間を有効に使えるようにし、勉強では復習に力を入れ、家庭学習も小学校のときより計画的にできる中学生になりたいです。」(以下、略)

S4:「グラフから、保護者も私たちと同じように勉強だけでなく、よい友人関係を築いて欲しいと願っていることが分かります。私もそうしていきたいです。」

教師:「それでは、学校教育目標、保護者の願い、生徒の思いを踏まえて、私の考える『目指す生徒像』を心からの期待をもって示したいと思います。これから示す学級教育目標を実現するために、全力を挙げてみなさんを応援していきます。」

- 計画を立て、粘り強く学習する生徒(知)
- 励まし合い、協力し合い、友情を深めようとする生徒(徳)
- 進んで健康・体力づくりに取り組む生徒(体)

S5:「僕が言った言葉も入っているぞ。がんばろう。」
(以下、略)



アンケート結果から、みんな同じ不安や思いをもっていることに気づかせ、何人かに具体的な心情などを発表させる。また、教師自身の経験談なども交えながら課題意識を共有化する。

不安の解消と今後への期待感を高めるのが本授業の中心的な狙いであることから、不安の原因や背景、解決策について具体的な理解を図るようになる。

指導内容として考えられることは「目指す中1の生徒像」であり、同時に「理想の学校・学級生活」、「学級会オリエンテーション」などの指導を効果的に取り入れることができる。S2のような発言がなくても、生き生きとした学級生活を目指すためには、学級会の役割や活動例を考えさせるなどの指導を工夫したい。

教師:「S2くんのような気持ちはみんながもっていると思います。ぜひ、早く互いを知って、楽しく豊かな学級生活をみんなで創っていききたいものです。そのために、どんな活動が考えられるかグループでアイデアを出し合ってください。」

S6:「それぞれの小学校時代の思い出を紹介し合う会や、進級祝いパーティーをしたいと思います。(略)」

S7:「学級での生活班の楽しい活動を多くしたいです。例えば、グループ新聞コンクールなども楽しいと思います。」

教師:「いいアイデアがたくさんありますね。それらは、また学級会でやっていきましょう。例えば、『中1らしい係をつくる』など、たくさん提案してください。」(発表し合った「理想の学級生活」をまとめる(略))

3 生徒一人一人の「個人目標」の設定

教師:「これまでの話合いから、各自が今年特にならばという目標を、配布した「目標カード」によく考えて書きましよう。書いた目標は、ぜひ互いに励まし合って取り組んでいきましょう。私も一人一人に合ったできのりでの応援をすることを約束します。」(生徒の発表(略))

教師:「今日は目指す生徒像や理想の学級生活について具体的に話し合いました。随分不安が解消され、期待感が高まったことと思います。今日から目標実現に向けて互いに励まし合いながら、頑張ってください。」

学級目標は、学校教育目標を受け、生徒、保護者、教師の願いを踏まえて、教師が整える。

話し合われた「理想の学校・学級生活」の内容は、幾つかのキーワードに統合してしまわずに、それぞれの提案を生かして、それを教室の側壁面等に掲示し、後に加えていくなど工夫する。

自分で決めた実践目標が十分な内容ではない場合(例えば、漠然としている、設定内容に難があるなど)は、個別に指導し、再考できるようにする。

「個人目標コーナー」を設けて掲示し、意欲を高める。

〔事後指導〕

1 目標の実現に向けた日々の取組と振り返り

S8:「『クラスの友達男女5人ずつとあいさつする』という目標については、◎だな。」

S9:「『家庭学習に毎日1時間取り組む』という目標は、昨日はできていないから△だな。今日からは、テレビを見る時間を減らして頑張ってみよう。」

S10:「『部活動で先輩たちに近づけるように朝10分間走る』という目標は、苦しいけれど、なんとか継続できるかもしれないな。」

2 目標の振り返り

教師:「みなさんが取組を始めて、そろそろ2週間が経過します。自分で立てた目標への取組状況について、カードをもとに振り返ってみましよう。」

S11:「【知】については、始めは〇が続いていたけど、部活動が始まってから、夜はすぐに眠くなってしまってできていないな。自主学习100分間は、今の自分にはきついかもかもしれないな。」

S12:「『部活動で頑張れるように毎朝10分間走る』という目標は、自分にとってはもう大変ではなくなったぞ。目標をレベルアップして15分間にしよう。」

教師:「自分にとって既に達成できている目標は、無理がない範囲で高めていきましょう。逆に『今の自分には現実的に苦しい』と思う人も、目標を見直してみましよう。」

3 取組の紹介

教師:「学級通信に、先日の授業の様子や学級目標、みなさんの個人目標を載せました。保護者の方にもひ見ってもらってください。」

保護者:「あら、最近、元気に学校に行っていると思ったら、クラスでこんな風に取り組んでくれているのね。目的意識ももてて、中学校生活が充実しているみたいね。安心したわ。」

実践を振り返る機会を設け、取組を継続させることができるようにする。

・自分で立てた目標の到達に向けて努力を積み重ねる活動を通して、自己指導能力の育成を図っていく。
 ・実践して目標を修正することもありうるので、自己の向上につながる取組になるよう指導を継続していく。



実践意欲が高まるよう、また家庭の理解や協力が得られるように、学級通信などを通して紹介するとよい。